

令和5年度「全国学力・学習状況調査」の結果 －分析から見てきた成果・課題と今後の取組について－

区 名	平野区
学 校 名	大阪市立長吉小学校
学校長名	岸本 昌悟

文部科学省による「全国学力・学習状況調査」について、令和5年4月18日（火）に、6年生を対象として、「教科（国語・算数）に関する調査」と「児童質問紙調査」を実施いたしました。

大阪市教育局では、保護者や地域の皆様等に説明責任を果たすとともに、より一層教育に関心をお持ちいただき、教育活動にご協力いただくため、各学校が調査結果や調査結果から明らかになった現状等について公表するものとしています。

本校でも、調査結果の分析を行い、これまでの成果や今後取り組むべき課題について明らかにしてまいりましたので、本市教育局の方針に則り公表いたします。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。

1 調査の目的

義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。さらに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2 調査内容

(1) 教科に関する調査

- ・国語
- ・算数

(2) 質問紙調査

- ・児童に対する調査
- ・学校に対する調査

3 調査の対象

- ・国・公・私立学校の小学校第6学年の原則として全児童
- ・長吉小学校では、第6学年84名

令和5年度「全国学力・学習状況調査」結果の概要

国語科の平均正答率は55%で、全国平均正答率と比べて12.2ポイント下回り、大阪市の平均正答率より12ポイント下回る結果となった。算数科の平均正答率は46%で、全国平均正答率と比べて16.5ポイント下回り、大阪市平均正答率と比べて16ポイント下回る結果となった。国語科については昨年度より改善傾向がみられるが、算数科については、昨年度より差が開く結果となった。

また、平均無回答率については国語科で7.7%で、全国の平均無回答率より2.9ポイント高い結果となり、算数科では8%で全国平均無回答率より4.6ポイント高い結果となった。無回答率についても国語科は昨年度より改善傾向がみられるが、算数科については、差が開く結果となった。

分析から見えてきた成果・課題

教科に関する調査より

〔国語〕

「話す聞く」「書く」「読む」「言葉の特徴」全ての領域において、全国平均正答率と比べて10ポイント以上下回っているが、昨年度の15ポイントよりは改善されている。特に、「読む」領域においては大幅に改善されており、キーワードに着目して文章を読み取るよう指導してきた成果が表れたと考える。問題形式については選択式より記述式を苦手と考えている児童が多くいることが見えてきた。普段の授業から、自分の考えをノートに書いたり友だちと交流したりする活動を多く取り入れているが、まだまだ十分とは言えない。

〔算数〕

すべての領域において、大阪市や全国より10ポイント以上低く、特に「数と計算」「データの活用」において、20ポイント下回っていた。一方、「図形」領域においては、昨年度と比べて大きく改善されている。問題形式においても、「選択式」よりも「短答式」「記述式」の正答率に改善が見られた。毎時間「めあて」を立てて自分の考えをノートに書くことを大切にして授業を進めてきたことで、説明する力がついてきている。しかし、早く正確に計算するための繰り返し練習の時間があまり取れていないことで、基礎基本の定着はまだまだ不十分である。

また、国語・算数ともに、無回答率が5ポイント近く上回っていたことが本校の大きな課題であると考え。粘り強く問題に取り組もうとする姿勢を育てる必要がある。

質問紙調査より

「学校に行くのは楽しいと思う」という質問に対して「当てはまる」と回答した児童は51.2%で、全国や大阪府を大きく上回っていた。また、「将来の夢や目標を持っている」に「当てはまる」と回答した児童も、64.6%と高く、全国や大阪府を大きく上回った。本学年の児童たちは将来の夢を持ち、楽しく学校に通うことができているということが言える。

しかし、「いじめはどんな理由があってもいけないことだと思う」は75.6%、「人の役に立つ人間になりたい」は70.7%、「自分にはよいところがあると思う」は28%とどれも全国・大阪府を下回っている。いじめのない学校にするために、スローガンを考えたり、取り組みを行ったりはしているものの、児童たちはまだまだ自分事としてとらえることはできていないことがうかがえる。また、数年前から自己肯定感が低いことが本校の課題であり、互いの良さを認め合い伝える活動や、成功体験を積み重ねるような実践を行ってきたが、児童たちに実感させることはできていないことが分かる。

今後の取組(アクションプラン)

令和3年度から「生活科・総合的な学習の時間」を研究教科として、主体的・対話的で深い学びを実現するための指導法について研究を進めている。自分たちの地域「長吉」の「ひと・もの・こと」に着目して教材化を図り、「学校がもっと楽しくなる」「長吉の町がもっと良くなる」ために自分たちにできることを考え伝え合う活動を通して、地域の一員であることの自覚を養い行動に移せる児童を育ててきた。今後も、取り組みを通して、将来の夢や目標を持ち、その実現に向けて努力し、自己肯定感を高めることができるようにしていく。

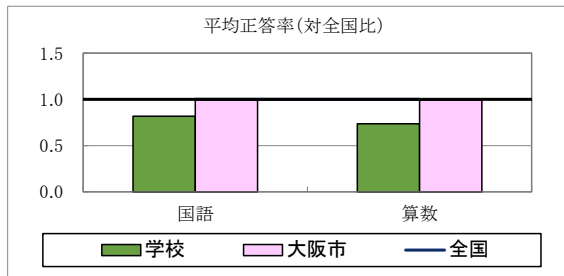
また、確かな学力をつけるためにも、国語・算数の学力を伸ばすことも併せて行っていく。基礎基本の定着に向けて朝の学習時間をながよしタイムとし、デジタルドリルやプリント学習に力を入れるとともに、自分で課題を見つけ、課題解決に向けて自分の考えを伝え合うことのできる児童を育てる。特に国語科では、文章を要約したり文字数を指定して自分の考えを理由をつけて説明したりする活動を行っていく。

さらに、スクールアドバイザーの指導による研修会を実施し、教員の指導力向上や教科横断的かつ系統的なカリキュラムマネジメントの構築に向けても取り組みを深めていく。

【 全体の概要 】

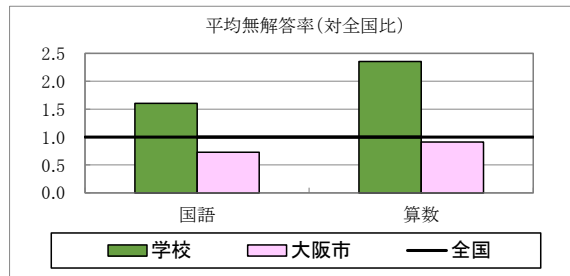
平均正答率 (%)

	国語	算数
学校	55	46
大阪市	67	62
全国	67.2	62.5



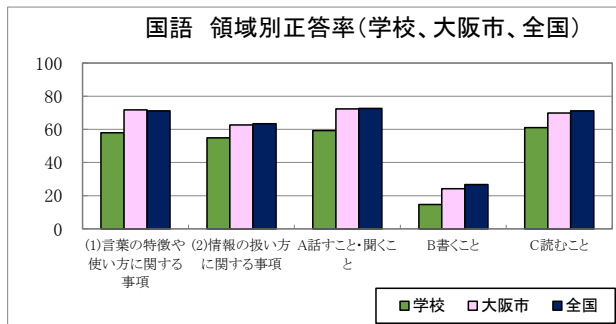
平均無解答率 (%)

	国語	算数
学校	7.7	8.0
大阪市	3.5	3.1
全国	4.8	3.4

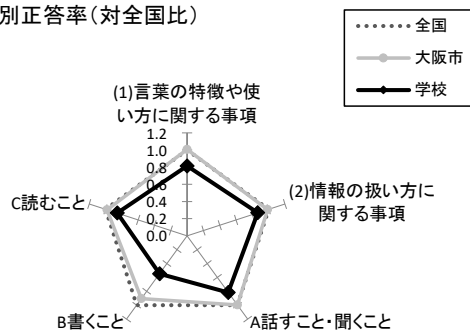


【 国 語 】

学習指導要領 の内容	対象 設問数 (問)	平均正答率(%)		
		学校	大阪市	全国
(1)言葉の特徴や使い 方に関する事項	5	58.0	71.7	71.2
(2)情報の扱い方に 関する事項	2	54.9	62.6	63.4
(3)我が国の言語文 化に関する事項	0			
A 話すこと・聞くこと	3	59.3	72.4	72.6
B 書くこと	1	14.6	24.2	26.7
C 読むこと	3	61.0	69.9	71.2

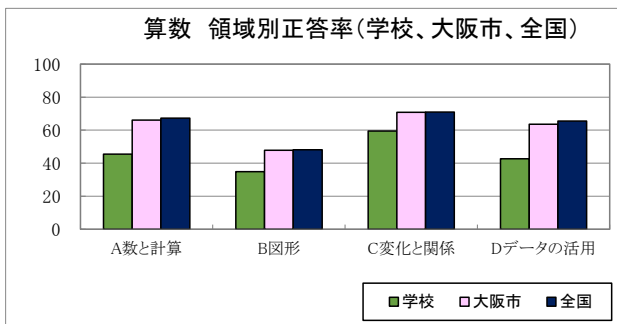


国語 領域別正答率(対全国比)

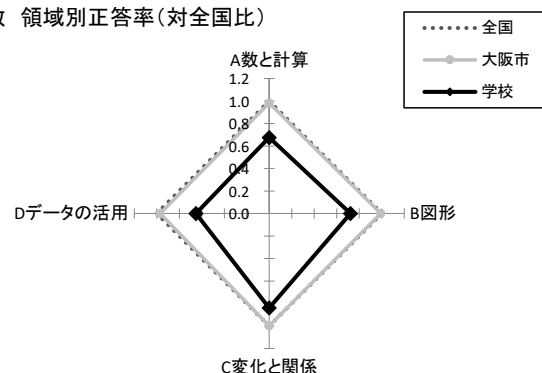


【 算 数 】

学習指導要領 の領域	対象 設問数 (問)	平均正答率(%)		
		学校	大阪市	全国
A 数と計算	6	45.5	66.1	67.3
B 図形	4	34.8	47.8	48.2
C 測定	0			
C 変化と関係	4	59.5	70.8	70.9
D データの活用	3	42.7	63.6	65.5



算数 領域別正答率(対全国比)

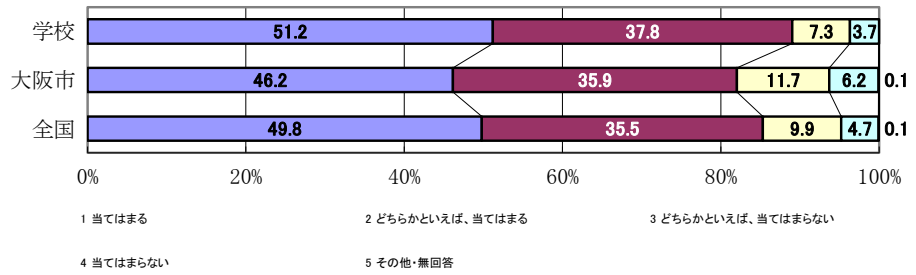


児童質問紙より

質問番号
質問事項

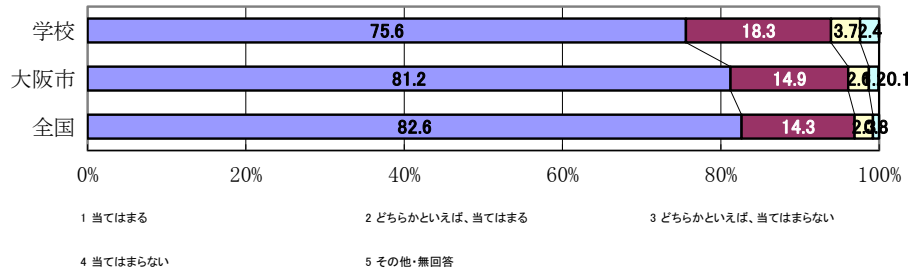
12

学校に行くのは楽しいと思う



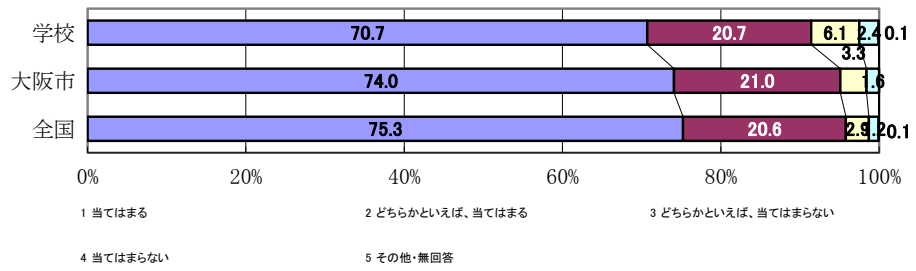
9

いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思う



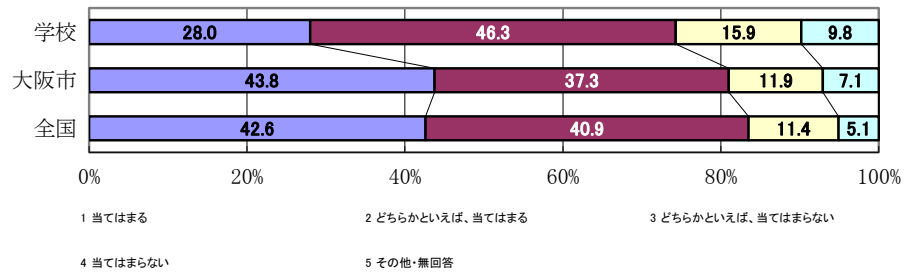
11

人の役に立つ人間になりたいと思う



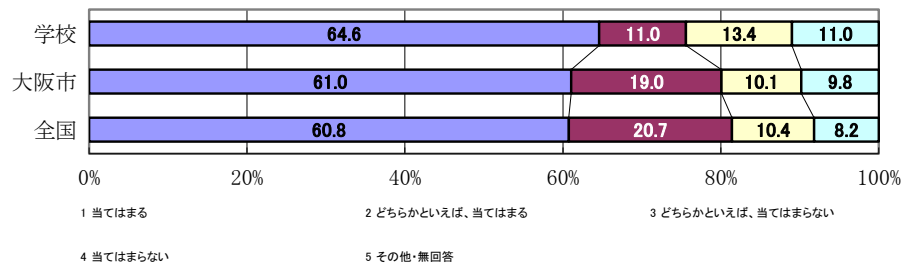
4

自分には、よいところがあると思う



7

将来の夢や目標を持っている



児童質問紙より

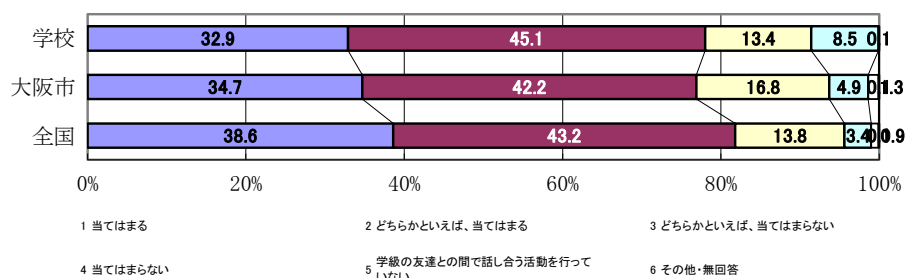
質問番号

質問事項

36

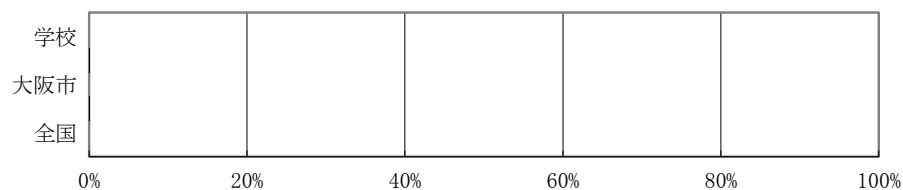
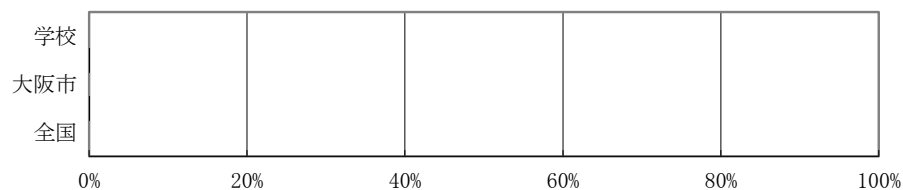
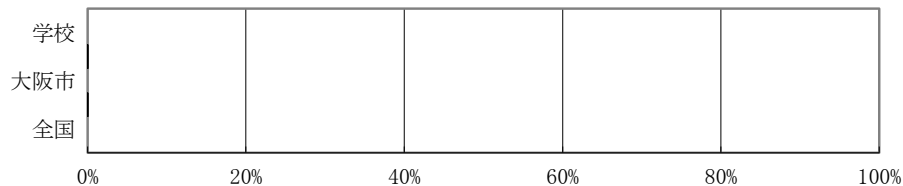
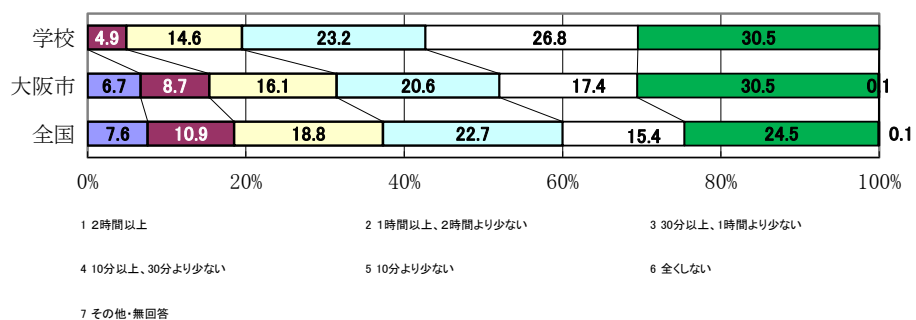
学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか

1 2 3 4 5 6 7 8



20

学校の授業時間以外に、普段（月曜日から金曜日）、1日当たりどれくらいの時間、読書を行いますか（電子書籍の読書も含みます。教科書や参考書、漫画や雑誌は除きます）



学校質問紙より

1 2 3 4 5 6 7 8 9 10

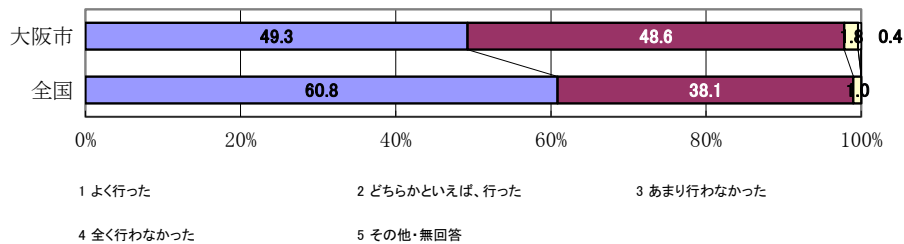
質問番号

質問事項

13

調査対象学年の児童に対して、前年度までに、学校生活の中で、児童一人一人のよい点や可能性を見つけ評価する(褒めるなど)取組を行った

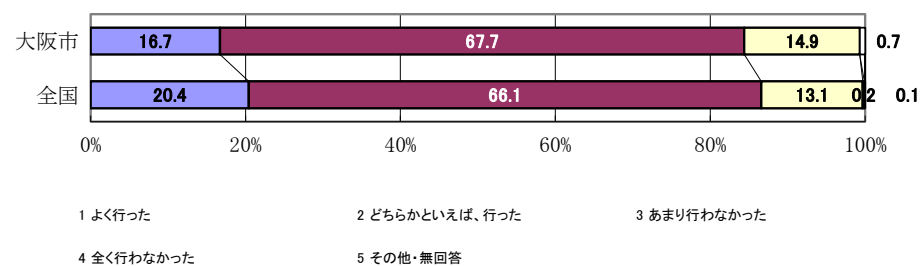
学校 「どちらかといえば、行った」を選択



11

調査対象学年の児童に対して、前年度までに、将来就きたい仕事や夢について考えさせる指導をした

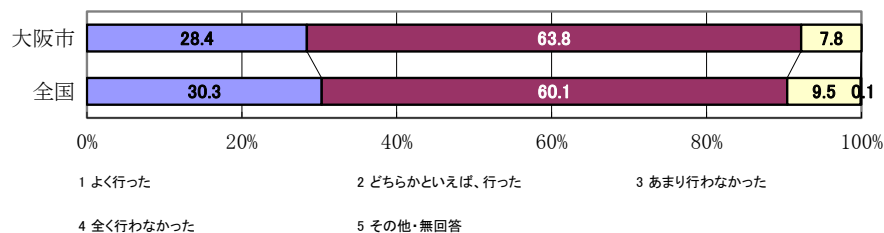
学校 「どちらかといえば、行った」を選択



33

調査対象学年の児童に対して、前年度までに、授業において、児童自ら学級やグループで課題を設定し、その解決に向けて話し合い、まとめ、表現するなどの学習活動を取り入れた

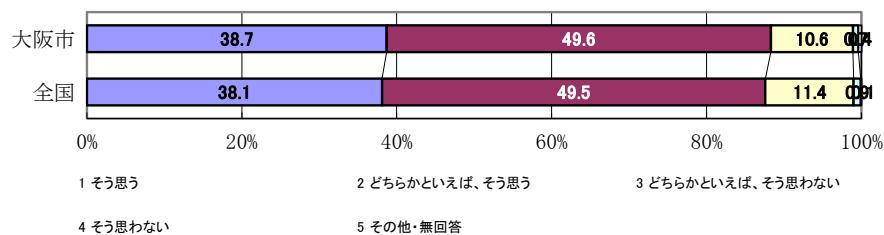
学校 「よく行った」を選択



9

調査対象学年の児童は、授業中の私語が少なく、落ち着いている

学校 「どちらかといえば、そう思う」を選択



37

調査対象学年の児童に対して、総合的な学習の時間において、課題の設定からまとめ・表現に至る探求の過程を意識した指導をしている

学校 「よくしている」を選択

